

## 障害者アート作品展企画

2019年度は岡山障害者文化芸術協会が岡山県から「障害のある人の文化芸術活動推進事業」を受託。岡山県内の障害者の芸術作品を紹介する「第3回きらぼし★アート展」を、2019年9月27日～10月3日に岡山会場（岡山市・表町商店街）、10月5～14日に玉野会場（玉野市・産業振興ビル）で開催。第2回同様、岡山県の行政、福祉、文化団体など官民あげた実行委員会が結成され、障害者の個性や豊かな感性に光を当てた。

テーマは「輝く星がつなぐ海・人・街」。岡山・玉野両市からの依頼を受け「岡山芸術交流2019」、「瀬戸内国際芸術祭」の後援プログラムとして、それぞれの会場となる岡山、玉野市で同時期に開催することで、世界的に注目を集めた両アート展を、岡山の障害のある方のアートが「つなぐ」役割を果たし、多くの人々が障害者アートを鑑賞する機会を創出した。

岡山会場は「表町・街なか美術館」と称して表町商店街で初開催。絵画は各店舗前、造形は天満屋地下タウンアートスペース、写真はアサノカメラに並べた。一部の作品はバナー（垂れ幕）に印刷し、アーケード上部からつるして空中展示した。会期中、作品のガイド付き鑑賞ツアー、一般参加もできるライブペイントやイノシシ革の端切れでイヤリングなどを作るワークショップを開いたほか、作品を鑑賞しながら商店街をめぐる記念品がもらえるスタンプラリーも会期を通じて行った。

玉野会場では、セミナーやシンポジウムを開催。独自にアトリエをつくるなど先駆的な取り組みで知られる福祉事業所・やまなみ工房（滋賀県）施設長の山下完和氏と社会福祉法人愛成会（東京）副理事長でアートディレクターの小林瑞恵氏らが登壇。シンポジウムには両氏に加え地元岡山から生活介護事業所ぬか管理者の中野厚志氏が参加した。岡山弁護士会の山下宗一郎氏は作品の著作権など法的保護をテーマに冊子を作成して配布・講演。また、やまなみ工房の作家に焦点を当てた映画「地蔵とリビドー」の上映も行った。入賞審査は備前焼の重要無形文化財保持者（人間国宝）の伊勢崎淳氏、山下氏、小林氏ら県内外の専門家5人により行われ、最優秀賞のきらぼし大賞は会社員・山根暁さん＝鏡野町＝の造形作品「ロボット2019」が選ばれ、絵画賞3点、造形賞1点、写真賞1点、新人賞2点のほか、玉野会場で行った来場者投票で最多を集めた1点には「一番星賞」が贈られた。入賞者は10月25日に山陽新聞社

(岡山市)で行われた表彰式で賞状と記念品が手渡された。表彰式終了後、展示作品すべてを収録した図録を制作、刊行した。

#### 障害者アート作品アーカイブ事業

障害者アート美術館開設に向け、きらぼし★アート展入賞者の作品を購入したほか、障害者アートの支援者から作品の寄贈を受けた。

#### 障害者就労、アートサポート支援施設設置に向けた企画調整

岡山県が文化振興と障害者福祉を一体的に推進する先進地となるべく、障害者の就労サポートや、障害のあるアート作家の作品の常設展示を行う「岡山アート&ジョブセンター」の設立に向けた企画調整を行った。